

酒田市総合計画審議会 第3回市民生活部会 議事要旨

1. 日時

平成29年7月4日（火）10:00～12:00

2. 場所

酒田市役所 第2委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 市民生活部会委員】

所 属	氏 名	備 考
酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴 勝	
八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長	兵藤 清彦	
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク	
一般社団法人酒田地区医師会十全堂会長	栗谷 義樹	
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善	副部会長
酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤 初子	
東北公益文科大学教授	武田 真理子	部会長

【事務局】

総務部長、危機管理監（危機管理課長代理出席）、消防調整監、企画振興部長、市民部長、環境衛生調整監、健康福祉部長、建設部長、商工観光部長（港湾空港交通主幹代理出席）
上下水道部長、上下水道技監、政策推進課

4. 議事内容

【事務局より会議の成立について報告】

- ・本日の出席委員は7人であり委員定数8人の半数以上となっていることから、酒田市総合計画審議会条例施行規則第4条の規定により、本日の会議は有効である。

【事務局より説明】

（1）今後のスケジュールの確認

- ・資料1に沿って事務局より説明

(2) 基本計画の第一次原案について

・資料2～4に沿って事務局より説明

【委員からの質疑・意見等概要】

(委員) 4-1 「誰もがいきいきと暮らしやすいまち」の「現状と課題」に「支援員」とは、社会福祉協議会で、職員を手伝ってくれる方を「支援員」と言っている。不足しているのは職員である「専門員」なので、ここの表記は「専門員」とすべき。

(委員) 5-1 「住民と行政の協働による地域運営ができるまち」の「現状と課題」に「地域によってはコミュニティ振興会の役割が明確でなかったり」との表現があるが、例えば、どういうことか。市で想定しているコミュニティ振興会の役割が理解されていないのか、コミュニティ振興会自体が何かを勘違いしているのか。

⇒ すべての地域において、コミュニティ振興会の役割が明確でないということではないが、コミュニティ振興会の歴史が浅い地域や、人口が減少している中で、自治会的な役割を担っている地域もあり、一般論としての、コミュニティ振興会の役割が伝わりにくい

(委員) そもそも、市がコミュニティ振興会の役割を示したことがあるのか。

⇒ 地域によってかなり役割が異なってくることから、コミュニティ振興会の役割を一元的に示したものは無い。

(委員) 現状、コミュニティ振興会の役割というのは定まっていない。何をすればいいかが全くわからず、コミュニティ振興会に任せ切りという状況。どのコミュニティ振興会でも、やっていることはある程度一緒なので、共通する部分は、何か指針のようなものがあれば良いと思う。地域性があり、難しいとは思いますが。

(委員) コミュニティ振興会によっては、さまざまな事業、行事で、かなり忙しい状況がある。

(委員) いずれにせよ引かかる表現であり、検討いただきたい。また、「今後の方向性」の中で、コミュニティ振興会のあり方のようなものを示すべきか。

(委員) 各コミュニティ振興会でそれぞれ自ら取り組むべき事業を設定しており、各コミュニティ振興会で実施していること自体には大差は無いと思うが。

(委員) コミュニティ振興会の連絡協議会で、コミュニティ振興会同士が連携していこうという動きもある。

(委員) コミュニティ振興会と自治会との関係性をどうすべきかは難しいところ。地域活動のベースは自治会であり、コミュニティ振興会はそこを応援していくべき。自治会が活動できない地域は、コミュニティ振興会が連携しながらやっていく。

(委員) 健康福祉、市民生活に関する部分については、地域コミュニティの位置づけが非常に重要となる。市の政策としてどう示すのか。

(委員) 1-1 「市民参画でつくる協働のまち」は地縁に因らない行政への参加について書かれたもの。現在、厚生労働省で「我が事・丸ごと」地域共生社会実現に向けた取り組みを行っており、それを踏まえたものかは不明だが、ここでいう「自分事」とは、行

政に対する参画だけではなく、コミュニティ振興会や自治会等、地域活動への参画についても自分事として関わっていくという点が重要である。1-1「市民参画で つくる協働のまち」、4-1「誰もがいきいきと暮らしやすいまち」、5-3「地域との連携でつくる安全・安心なまち」、など様々な政策分野で、地域を拠点にした支え合いが多くなっていく。また、そうでなければならない。原案でも、できるだけまとめようとしているのはよくわかるのだが、地域でやるべきことをもう少し体系的に整理できないか。また、地域が実施すべき具体的な事例を示していくことはできないか。(例えば、ひとづくり・まちづくり総合交付金を活用し、コミュニティ振興会職員に地域共創コーディネーター養成講座を受講させている地域もある。)

(委員) 地域における体系的な施策が見えない中で、成果指標にビジョンの策定を位置づけるというのはいかがなものかと思う。

(委員) 4-3「健康でいつまでも活躍できるまち」の「今後の方向性」について、「食生活改善推進委員会」の記載があるが、「食生活改善推進協議会」または「食生活改善推進員」という表現に修正願う。

(委員) ピロリ菌検査については、予防効果が高いことから今後も継続していくべきと考える。

(委員) ごみ減量について、先日ごみに関する説明会がコミュニティ振興会で開催されたが、女性の関心が高いと思う。また、説明会は、個人個人の意識を変えていくことができるので、広報紙等、一方的な情報発信よりも効果が高いと考える。息の長い取り組みが必要だが、丁寧な説明と対話があれば効果は出てくるはず。

(委員) 2025年に向けた記載がシートの中に無い。個別計画でやっているからいいということなのかもしれないが、地域包括ケアについては、生活支援コーディネーターを配置して進めることになっており、コミュニティ振興会等の地域で仕組みを作ることになっているはず。

⇒ 特に記載が無くても、今時点で、自立支援、介護予防、重度化防止といった部分が重点的に取り上げられて、在宅医療、介護連携、地域包括ケアシステムの構築に結びついているものと認識。ご指摘のとおり、生活支援サービスに渡る部分までの入れ込み方が少ないので検討させていただく。

(委員) 説明の時間が長くなることから、3日前には資料を事前配布頂きたい。

(委員) 少子化は日本全体の問題。4-2「結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなうまち」の中で、「ニーズに合った」という表現があり、それ自体は重要な視点であるが、具体的にどうするのが見えない。

まず、病児病後児保育については、どこかに書き込むべき。現在、医師の診断書が必要になっているが、預ける側からしたら、朝起きてから、小児科に行って診断書を取るとなると、仕事に間に合わない。必要なのはシングルマザーの子育て支援。そのニーズを考えるべきで、診断書不要の病児病後児保育があったら非常に助かるはず。

また、子ども食堂については、酒田で3ヶ所やっているとのこと。親に余裕が無い状態だと虐待に結びつくことが予想されるので、もう少し拡充できないか。かなり助かる人達がいるはず。

また、無料学習塾についてもぜひ始めて欲しい。働くシングルマザーの支援。必要な時に、すぐサービスを受けられるかが重要。

(委員) 総花的ではない、重点的な記載ということで、今のご意見は目指すまちの姿として合致したものとする。先進自治体になれる可能性もある。

(委員) 近年、婚姻していない妊婦の自殺が増加している。酒田市ではそんなに無いと思うが。その段階からのサポートが必要。「ネウボラ」は基本的に、アドバイスを行うものであり、実質的なサポートに結びつかなければ誰も利用しない。

⇒ 具体的な事業は中々盛り込めないが、必要性は感じており、現状の記載の中の具体例として検討させていただきたい。「子育て世代包括支援センター」は必ずしも相談だけではなく、具体的なサービスにどう結び付けていくかが重要。実際の子育て支援サービスとの連携につなげていきたいし、医療機関との連携も強化しなければならない。ハイリスク妊婦の発見含め対応していきたい。

(委員) 保健師を病院に常駐できないかという要望もある。行政機能の一部を小児科に持って来て欲しいというもの。現状、実際のサービス、サポートを受けるまでに時間と距離がありすぎる。連携と言っている以上やるべきである。

耳当たりの良いワードばかり羅列すると、逆に白々しく感じないか。実際にサービスが受けられなかったような際に、「行政に裏切られた」と感じるのでは。甘い言葉の羅列はやめて、実際に重点的に必ず取り組む事業に結びつく話を少し出していくべき。

(委員) せっかく市民参画を得て策定している総合計画なので、具体的な新しい事業を打ち出すと、市民にもメッセージとして伝わりやすいのではないか。

第7章の行政サービスの見直しという部分にも盛り込んでいってはどうか。市民生活部会の所管はもっとも切羽詰った分野だ。

また、先ほどあった子ども食堂については、様々なタイプがあり、子どもだけではなく、様々な方が利用する地域食堂というものもある。生活支援サービスの部分もそうだが、自治体の枠を超えて展開していく姿勢が重要。

(委員) 「地域で子どもを育てる」と聞くと、高齢者がしつけをする等、メンタル的な部分を連想してしまうが、そうではなくて、子ども食堂のような実際に受けられるサービスを全面に出していくべき。

(委員) 5-4「暮らしの足」が維持されるまちについて、公共交通だけで暮らしの足が維持されるとは到底思えない。免許返納した高齢者の方等は、例えば何か行事があった

としてもコミュニティセンターまでの足が無くて参加できない。公共交通の視点だけではなく、福祉課題、支え合い活動等の視点を入れ込まないと、暮らしの足は維持できない。

(委員) 子ども食堂の部分については、「貧困、孤食、学習支援などの課題については正確な現状を把握し」ということになっているが、民間であれば、その間に進めている。どのくらい需要があれば実施するのも判断が難しい。未だ市が乗り出す段階ではないという姿勢ではなく、目指した方がいい。

(委員) 実態調査については、以前大学でも委託を受け調査・分析しているので活用してはどうか。待ったなしの課題である。

(委員) 1-1、4-1、5-3のシートの中で、市民と行政の間の組織についての記述が弱いと感じる。「職場」がまったく登場していない。施策として落とし込みにくいのもかもしれないが、ワークライフバランスの考え方を入れ込むべき。例えば、防災活動にしても、地域活動にしても、参加するためには職場の理解が必要。職場というものをどう捉えていくか。施策としては、例えば企業と協定を結ぶ、積極的に地域活動を関わる職場を応援するといったことが考えられる。

(委員) 関連する事業毎にタスクフォースを作った方がいい。

また、何事も楽しくないと長続きしない。例えば子ども食堂を実施するとなれば、感情的な対立も増えるだろう。その意味で、調整能力が高い人材のキャスティングは非常に大切。タスクフォースのようなものができないと、誰に頼んだら上手くいくのかという視点が出てこない。事業が成功するかしないかは、上手くやれる人を探すことがもっとも大切なポイントとなる。

例えば病院では、9月になるとあきほ祭りを開催する。さまざまな団体から多くの参加があるが、企画する側も一緒に参加し、楽しむという視点も大切である。市役所がもっとも苦手とする部分だとは思いますが、そうでないと長続きしない。

(委員) 市役所の中でもそういった議論となっているのでは。計画でいうと第7章の部分になるか。

(委員) タスクフォースに加え、人材バンクのようなものがあればよい。

(委員) 毎年、地域で防災訓練を実施するわけだが、災害時における要介護者支援について考えていかなければならない。

(委員) 大学との連携の部分で、以前、消費者の会と公益大学で連携して事業を実施した際、専門分野の先生からアドバイスをもらうことができた。

また、大学で開催されていた市民大学講座は酒田の現状を知ることができ、非常に良かったと思う。

(委員) ごみ減量の取り組みについては、徐々に浸透しつつある。情報発信については、紙の広報紙や回覧板だけでなく、個別の声がけが有効であると感じている。

また、最近では「雑がみ分別大作戦」が展開されており、女性の関心がとても高いと感じている。

(委員) 確認だが、現状、シートの中に施策を記載しているわけだが、この下に事業がぶら下がるということか。「今後の方向性と主な施策」というのは、体系図の中ではどこに位置づけられるものなのか。

⇒ シートは「政策（より具体的なめざすまちの姿）」にあたる。その下に本体には出てこないが、個別事業がぶら下がることになる。

(委員) 先ほど提案があった、パンチのある、発信力がある新しい施策の位置づけは、これから検討ということで理解する。

⇒ 本日、さまざまな御意見を頂いた。市民の皆様にわかりやすく伝わるよう、政策毎に見開きページにすることとしている。今後ブラッシュアップしていく中で、盛り込めるものは反映し、第2次原案という形で示していきたい。

(3) 現状と課題（最終調整版）について

- ・後日確認のうえ、意見等あれば事務局に伝えることとする。

(4) その他

(委員) 次回の部会の際は、事務局からの説明は出来るだけ短くし、議論の時間を十分確保頂きたい。本日十分に発言できなかったところを含め、議論を深めたい。

(委員) 今日発言できなかったが、後日気付いた点などある場合は事務局にお伝えするという事でよいか。

(委員) 委員全員に共有できるよう、事務局からの配慮をお願いしたい。

(以上)